

令和5年4月21日

「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の
施設整備事業」事業審査委員会の総評

本事業では、「研究力の向上戦略の実現可能性や優位性・発展性」、及び「施設の整備内容の有効性や妥当性等」の双方の観点から審査を行った結果に基づく相対評価により、採択大学を決定しました。

本事業では、研究力の向上戦略に関して意欲的な内容を含む申請が見られるものの、戦略やそれを実行するための取組について、解像度を高めたり、具体化を進めたりといった深掘りした検討が必要と考えられる内容を含む申請も多くありました。

日本の研究力をけん引する研究大学群の一翼を担っていただくうえで、それぞれの大学が有する研究力の特色や強みを踏まえた大胆かつ実効的な改革によって、学内の他の組織等に研究力強化の効果を波及させる取組が必要と認識しています。

本事業に申請した全ての大学においては、今後公募予定の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（以下「基金事業」という）の申請に向けて、本委員会の総評及び個別のコメント等も踏まえつつ、日本の研究力をけん引する研究大学群の一翼を担っていくということを意識して、更なる高みを目指して研究力の向上戦略の深掘りを進めてください。

なお、採択された大学においては、基金事業の申請にあたって、整備する施設との相乗効果を生むことを目指した提案を立案することも期待します。また、施設の整備計画の実施に当たり、文部科学省には、その進捗を注視しつつ適時適切にサポートすることを求めます。

そのほか、研究力の向上戦略の検討・策定や、その戦略を実行するための取組の推進にあたっては、以下の事項も十分に留意してください。

当委員会としては、これらの事業も活用しながら、日本を代表する地域中核・特色ある研究大学へと発展していただくことを期待します。

① 戦略の検討にあたって

- 日本の研究力をけん引する研究大学群の一翼を担っていくことを意識して、これまでの研究拠点の活動で何ができて何ができないかを分析したうえで、十分な研究規模や実績を有する研究拠点の強みや特色を核とした取組の更なる発展や、学内や社会に新たな展開をもたらすために、どのような研究力の強化策が必要かの深掘りをする
- 強化したい研究分野や社会実装を目指すテーマにおけるベンチマークを明確化するとともに、強みが見える指標のみを自大学の都合に合わせて選択的に抽出するのではなく、客観的かつ多面的なアウトプット・アウトカム指標から徹底的に研究力を分析し、機能ごとにその実現に向けたロードマップ及びマイルストーンを設けること。その中で、研究者・研究支援者等の育成・採用・獲得戦略の検討にあたっては、時間軸や人数等の定量的な内容を含めるとともに、その環境を持続できるよう、維持・向上させるための仕組みの検討も行うこと
- 大学において地域課題解決を目指す場合、地域の課題が何で、その中で優先的に取り組むべき事項を把握したうえで、研究拠点の強みや特色をベースに地方自治体等との実効的な連携を通じた戦略を立案すること

② 戦略の策定、及び戦略を実行するための取組の推進にあたって

- コアとなる研究者やそれを取り巻く研究の厚み、これらを活かすガバナンスを通じて、根拠ある 10 年程度先の将来予測の下に目指すべき大学ビジョンを描き、そこからのバックキャストにより、更なる研究の質の維持・発展や外部資金の獲得、卓越した研究者及び支援人材の獲得等が可能となる戦略を立て、戦略を実行するための取組を推進していくこと
- 特定の研究分野やセンターのみを中心とした研究力強化策だけでなく、これらの分野を強化しながら、他分野や学内の他部門への成果の拡張、若手人材の育成など波及効果を期待できる戦略を立て、戦略を実行するための取組を推進していくこと（例：強みのある分野と他分野の融合研究の推進や強みのある分野での教員の人事・採用戦略の横展開等）
- 大学間連携を行う場合には、大学ごとに何を強化するために、学内に何が不足していて、それをどこと連携してどう補うと、どう強くなれるかといった明確な戦略性のもと、他機関との連携等を通じて自大学の強みを更に発展させることが必要であり、単なる他機関との共同研究の推進でなく、戦略性や一定の規模感を備えた連携効果が高い方策を立て、戦略を実行するための取組を推進していくこと

以上